

公民館が生む、地域の絆

この地域でのつながりづくりを支える「向能代地区公民館活動協力員」の皆さん。日ごろから、公民館の行事などの運営に携わり、地域住民との橋渡し役として活動しています。新しい公民館完成にあたって、これまでの活動を振り返りながら、未来への期待を語っていただきました。

改築後の館内を見て、「テーブルが軽くて動かしやすい」「木のまちらしく木がふんだんに使われていてとても良い」と皆さん。パリアフリー化や冷暖房の整備で「高齢の方にも優しくなった」「これなら使う人がもっと増える」と

期待膨らむ新しい公民館

向能代公民館は、地域行事のたびに人が集う拠点でした。協力員の皆さんは「そうした行事の中でも、地域の人々が一番つながりを感じられるのが東雲地区文化祭だと思えます」と振り返ります。文化祭の日には、笑い声が広がり、子どもからお年寄りまで同じ時間を楽しみました。以前は雨漏りや冷房の不備にも悩まされましたが、「不便でも地域の皆さんが協力的だったので、楽しい思い出の方が大きいです」との声に、長年積み重ねてきた愛着がにじみます。

思い出を紡いできた場所



「地域の拠点として、暮らしに寄り添う場に」



向能代地区公民館活動協力員の皆さん

田森さん

赤塚さん

山田さん

大高さん

岸部さん

令和6年5月の旧施設解体から、およそ1年3カ月かけて行われた向能代公民館・向能代地域センターの改築工事。誰もが使いやすくぬくもりのある空間に生まれ変わりました。施設を管理する石川館長に、施設への思いと今後の展望を伺いました。

快適さとぬくもりを備えた新たな公民館

老朽化が進んでいた向能代公民館が、新たな姿で再出発しました。以前はエアコンがなく夏は扇風機でしのぐ日々。和式トイレのにおいや雨漏りに悩まされる声も少なくなかったそうです。

「利用者と接する中で、そうした声を多く伺いました。今回の改築で改善され、本当にうれしく思います」と館長は話します。特に木材を多く使った内装はぬくもりがあり、天井が高く開放的な大会議室やホール、明るい窓辺など、快適さが一段と増しました。冷房の涼しさや、防音性能の高さも実感しているそうです。

「世代を問わず親しまれる場になってほしいと思います。地域のシンボルとして、大切に管理していきたいですね」と語ってくれました。



地域を支える交流拠点

ダンスやヨガ、子ども食堂、囲碁や俳句など、多彩な活動が行われてきた向能代公民館。会議やサークル活動を通じて、地域のつながりを支えてきました。

「特に東雲地区文化祭では、子どもたちや地域の方の作品を見に、多くの方が訪れます。皆さんにとって、公民館は地域の身近な施設だと感じています」と館長は話します。今回の改築では、談話コーナーも整備され、より利用しやすくなりました。

「放課後の子どもから高齢

者まで、幅広い世代が気軽に集まれる場として活用してもらえたらうれしいです」と笑顔を見せてくれました。

地域に寄り添い、頼れる存在へ

向能代公民館は学びや交流の場としてだけでなく、地域センターとして暮らしの手続きや相談にも応えます。

「あいさつ、返事、笑顔を大切に、正確で迅速な対応を心がけています」と館長。市の指定避難所でもあり、災害時には地域の安心の拠点到「地域のために役立つ施設でありたいと考えています。親しみやすく、頼りがいのある存在でありたいですね」と語ります。

新しくなった公民館が、これからも地域の思いをつなぎ、人と人との絆を育みながら、地域に根差した歩みを続けます。



向能代公民館 石川館長

地域の輪をさらに広げるために

「新しい公民館だからこそ大事に使っていかたいと思っています。皆さんで大切に活用してほしいです」と協力員の皆さん。

「公民館でいろいろな人と話すことで、つながりが自然と広がっていくと考えています。ここが人と人をつなげる場になればうれしいですね」とも語ります。

取材を通じて、公民館が人と人との関係を育み、地域のあたたかさを支える場所であることを改めて感じました。新しい公民館が、これからも地域の輪を広げる拠点となることを願っています。